

# ぶらり駅前

JR川越駅から田園風景の中を約20分、目指す駅にたどり着いた。駅舎の緑の瓦と白の壁面に、旧駅舎の気品漂う面影が残されていた。

旧駅舎は、昭和天皇が豊岡(現在の入間市)の陸軍航空士官学校の卒業式に出席する際の下車駅として、1940年に建設された。2本の丸柱で支えられた車寄せがあり、専用玄関の奥に陛下を迎える貴賓室が備えられていた。内部は絵画やシャンデリア、調度品で華やかに彩られていたという。貴賓室は2004年、駅舎の橋上化に伴う建て替えて解体されたが、新駅舎内には貴賓室正面玄関のミニチュアが、当時の屋根瓦や丸柱を使って、再現されている。

「今の駅舎の気品も、歴史の重みが醸し出しているのです」と、旧駅舎の保存運動に取り組んだ近くに住む茶問屋経営の清水勇三さん(77)が教えてくれた。階段を下った駅南口は「さくら口」と名付けられ、駅前広

## JR川越線・武蔵高萩駅

(埼玉県日高市)

場と県道を結ぶ約80mの坂道に30本ほどの桜が植えられている。天皇訪問に間に合うようにと、39年に旧高萩村青年団が植樹したという。

さくら口を抜け、徒歩で約15分。歴史の舞台をさかのぼり、「女影ヶ原(おなかげがはら)古戦場」に着いた。古戦場跡に立つ霞野神社境内の石碑には、建武2年(1335年)の「中先代の乱」で、鎌倉幕府15代執権の北条高時の子、時行と、後に室町幕府を開く足利尊氏の弟、直義が戦った地であることが説明されている。

近現代と中世の歴史の世界を堪能した後、東へ約40分ほど歩くと埼玉種畜牧場(サイボク)が見えてくる。約10万平方メートルの広大な敷地で育てた豚を加工したハムやソーセージが販売され、レストランではトンカツやスパアリブを味わえる。敷地内には天然温泉「まきばの湯」もあり、歩き疲れた体に心地よかった。(所沢支局 佐野泰彦)

### メモ

昭和天皇は1941、42、44年の3回、特別列車で旧駅舎を訪れている。貴賓室は戦後50年以上、利用されることはなかった。

た。サイボクの本社兼工場のある日高市の敷地では75年から、豚肉などを直売している。問い合わせは、サイボク(042・985・0869)へ。

